

# 第1回

## 協働のまちづくりプロジェクト会議

### テーマ「高齢者の見守り対策」

劍淵町の「協働のまちづくり」をより進めるため、平成21年度まで実施してきた町政モニター会議を改め、平成22年度からは、協働のまちづくりプロジェクト会議として実施しています。

この会議は、町内に居住する20才以上の委員20名以内で構成され、まちづくりの課題等から、討論するテーマを設け、様々な視点からご意見やご提案などを話し合い、行政の参考とさせていただきます。

6月22日に開催した、第1回目の会議では、近年、深刻な問題となっている高齢化社会について、劍淵町の「高齢者の見守り対策」をテーマに討論いたしました。会議で出された主な意見は、次のとおりとなっております。

・毎日決まった時間に子どもから電話が来る。いつもと声が違うと、「なぜでもひいたの?」と心配され、お節介のようだがと

てもありがたいことだと思おう。

こちらにも心配は掛けられないので、日頃の生活にも気をつけるようになる。見守りは、家族が一番先に思いやるのが大切なことだと思おうので、ぜひ、家族内で実践してほしい。

・社会福祉協議会が行っている小地域ネットワークが機能されていない。高齢者の見守り対策は、日常的な見守りや声かけを小地域ネットワークの福祉委員や自治会、民生委員などが協力し合い、みんなで見守り活動を行うといいと思う。また、小地域ネットワーク(5〜7人)を作り、その人たちが見守り活動をするのもいいと思う。

・地域のイベントに出て来ない、来れない人がいますが、なんとか出てきてほしい。また、ある一定の年齢に達したら、強制的に健康診断を受けてもらう工夫も必要と思う。

・足など不自由な高齢者の方のために、病院への通院時等、高齢者の足となる何か良い方法を考える必要がある。

・町の事業もボランティアで成り立っている部分がある。日赤奉士団の方たちもボランティア活動をしているが、団体の高齢化が進んでいる。ボランティアのコーディネーターやボランティアをする人の育成、参加してくれる人を積極的に呼びかける必要があると思う。

・高齢者の一日の生活サイクルは決まっているので、玄関に札を設置し、新聞を取りに行く際にその札で「在宅中」と分かるようにできたら良いと思う。新学童保育所で、子どもたちと高齢者が交流できる時間を作ることで、高齢者の生きがい、子どもたちの感謝の気持ちなどが養われると思う。

・多くの高齢者が居住できる建物を作り互いに見守りができ、周りからも見守りやすい施設等を作ってはどうかと思う。

・劍淵町は近隣の人との繋がりが強いので、各自治会で、班ごとに、高齢者を把握することで、その地区ごとで安否確認ができる。

・高齢者に対し、周りの人(特に若者)の意識改革をしていかなければならないと思う。「真剣に考えなければ」と思う人が増えていけばいいと思う。

・若い人たちは、ボランティアをやりたいと思っても、仕事との両立ができず、なかなか参加できない。特に単身で生活、結婚して家族で生活している若者は、仕事をしないと食べていけなくなるので難しい。このような状況から、高齢の方がボランティアをする形になっている状況だと思おう。

協働のまちづくりプロジェクト会議は、年3回ほど(必要があれば会議回数が増えます。)行い、皆さんの意見を出し合います。会議で出された意見は、町の行政の参考とさせていただきます。